

Weekly report



株式会社 ミンカブソリューションサービス
東京都港区東新橋1-9-1

為替週間展望＝ドル円は高値圏で底堅い推移が継続か

[11月6日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		10月27日～11月2日			
始値	高値	安値	終値	前週比	
ドル・円	150.40	151.72(31)	148.81(30)	150.39	-0.01
ユーロ・ドル	1.0563	1.0675(31)	1.0517(1)	1.0600	+0.0037
=====					
国内株・金利／米国株・金利					
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	31,949.89	+958.20	日本10年債利回り	0.923	+0.042
ダウ平均株価	33,274.58	+856.99	米10年債利回り	4.734	-0.101
=====					

<来週の主要経済統計等>

- 6日 独9月製造業受注指数
独10月サービス業PMI確報値、ユーロ圏10月サービス業PMI確報値
カナダ10月Ivey購買部協会指数
- 7日 日本9月勤労者世帯家計調査
中国10月貿易収支
豪中銀(RBA)政策金利
スイス10月雇用統計
独9月鉱工業生産指数
ユーロ圏9月生産者物価指数
カナダ9月貿易収支
米9月貿易収支
- 8日 日本9月景気動向指数速報値
独10月消費者物価指数確報値
ユーロ圏9月小売売上高
- 9日 日本9月経常収支
中国10月消費者物価指数、中国10月生産者物価指数
米新規失業保険申請件数
パウエルFRB議長 討論会参加
- 10日 英9月鉱工業生産指数、英9月製造業生産指数
英9月貿易収支、英第3四半期GDP速報値
米11月ミシガン大学消費者信頼感指数速報値

【前回のレビュー】円は日銀による政策修正への期待感が一部にあるものの、金融政策は現状維持との見方から、大きく円買いに傾きにくいとみられる。ドル円は介入警戒感が上値を抑える可能性があるものの、底堅い推移を続けて、緩やかに上値を追う展開が見込まれるとした。

【FOMCを受けて米長期金利が低下】

10月30～31日に開催された日銀金融政策決定会合では、イールドカーブコントロール(YCC)の再修正の措置を決定した。長期金利の上限の1%を超える取引を認める。日銀は今年7月の会合で指値オペの実施水準を0.5%から1.0%に変更したばかりだが、市場の実勢に合わせて再度柔軟化に動いた格好となる。

7月の会合後に発表された「イールドカーブコントロール(YCC)運用の柔軟化」と題するペーパーで、「指値オペで10年金利を1.0%に厳格に抑制」としていた。1%が事実上の上限となっていたものを今回「1%をめど」に変更して柔軟な運用に動

く。これに関して日銀の植田総裁は「はっきりした上限を置いておくことが、それに近づいたときに副作用が高まることを避けたい」と説明している。

なお、今回のＹＣＣ再修正に関しては、市場で想定されていたほどの大きな変更ではないとの見方も広がり、円売りの動きにつながった。ドル円はＮＹ市場で１５１．７０台までドル買い円売りが進んだ。その後、財務省の神田財務官の「過度な変動にはあらゆる手段を排除せずに適切な行動をとる」といった発言もあり、介入警戒感から１５１円台前半まで軟化した。

１０月３１日～１１月１日の米連邦公開市場委員会（ＦＯＭＣ）では、政策金利は据え置きとなった。２会合連続での据え置きとなる。声明では、「経済活動が力強く拡大している」「金融環境の引き締まりが経済活動の重石となる」と示すとともに、「必要に応じて政策金利の引き上げがありうる」と利上げの可能性が残されていることを示唆した。

パウエル議長は記者会見で、「昨年からの利上げの効果は表れている」「利上げペースを緩めることで、今後の追加利上げが必要かを判断できる」「米長期金利の上昇により、金融環境は引き締まりを見せた」「今後の不確実性に配慮しながら慎重に政策を進める」「利上げを２回見送ったからといって、１２月も利上げしないというわけではない」「利下げについては考えもしていない」などと述べた。

足元での金利上昇による景気への悪影響に言及しており、ややハト派寄りとの見方が広がり、米１０年債利回りは４．７４％台まで低下した。ドル円はＦＯＭＣ前の１５１円台前半から１５０．６０台まで下落、その後も上値は重く１５０円台前半まで下落している。

米国ではＦＲＢによる利上げ打ち止めの可能性が高まりつつあるものの、金利水準は高止まりが続くとみられる。そうした中でも米国経済はますます堅調な推移を見せている。一方で日銀はＹＣＣを再柔軟化したものの、それほど思い切った変更とはなっておらず、緩和姿勢は維持されている。政府・日銀による介入警戒感は根強いものの、ドル円は高値圏で底堅い推移が続くとみられる。ドル円の目先の予想レンジは、１４８．５０～１５２．５０円。

日米の経済指標やイベントとしては、７日に日本９月勤労者世帯家計調査、米９月貿易収支、８日に日本９月景気動向指数速報値、９日に日本９月経常収支、米新規失業保険申請件数、１０日に米１１月ミシガン大学消費者信頼感指数速報値などがある。

【ユーロドルはレンジ相場が継続か】

ユーロドルは１０月３１日に１．０６台後半まで上昇したものの、米長期金利の上昇などに伴うドル買いの動きから１．０５台半ばに下落した。ユーロ圏第３四半期ＧＤＰ速報値や１０月のユーロ圏消費者物価指数速報値がいずれも市場予想を下回っており、ユーロ売りにつながった。その後も軟調な動きとなり、１．０５台前半まで下落した。ＦＯＭＣを受けてドル売りの動きから１．０６近辺まで戻している。

ユーロ圏でのインフレが鈍化傾向にあることや景気減速への警戒感から、欧州中央銀行（ＥＣＢ）による年内の利上げはないとみられる。ユーロドルは戻したところでは売られやすいものの、１．０５００ドル近辺では底固いとみられる。こうした中、ユーロドルはレンジ相場が継続することになりそうだ。ユーロドルの目先の予想レンジは、１．０４５０～１．０７５０ドル。

ポンドドルは２４日に１．２２８０台まで上昇したものの、その後は１．２０６０台まで下落した。その後は１．２２００台まで戻したものの、再び軟化した。ＦＯＭＣを受けてドルが売られたことで１．２２００近くまで戻りを見せている。ただ、ポンドドルもユーロドルと同様にレンジ相場を見せており、一進一退の動きが見込まれる。ポンドドルの目先の予想レンジは、１．２０００～１．２３００ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、６日に独９月製造業受注指数、独１０月サービス業ＰＭＩ確報値、ユーロ圏１０月サービス業ＰＭＩ確報値、カナダ１０月ＩＶＥ

Y購買部協会指数、7日に中国10月貿易収支、豪中銀（RBA）政策金利、独9月鉱工業生産指数、ユーロ圏9月生産者物価指数、カナダ9月貿易収支、8日に独10月消費者物価指数確報値、ユーロ圏9月小売売上高、9日に中国10月消費者物価指数、中国10月生産者物価指数、10日に英9月鉱工業生産指数、英9月貿易収支、英第3四半期GDP速報値などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブソリューションサービスは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブソリューションサービスが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブソリューションサービス)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。